

雜 報

會 員 動 靜

	陸軍三等軍醫正八位	柴 田 剛 太
	陸軍三等軍醫正八位	新 宗 一
	陸軍三等軍醫正八位勳六等	山 崎 磐
任陸軍二等軍醫		
	陸軍二等看護長	辻 岡 新 作
	陸軍二等看護長	小 堀 文 哉
	陸軍二等看護長	小 田 薰
任陸軍三等軍醫		
陞敘高等官五等	朝鮮總督府道慈惠醫院醫官	沖 津 亘
陞敘高等官七等	臺灣總督府醫院醫官	島 山 長 作
		(三月二十八日)
免本職岡山醫科大學研究科入學被仰付	工兵第十大隊附陸軍三等軍醫	岸 本 俊 榮
免本職補飛行第五大隊附	飛行第六大隊附陸軍一等軍醫	武 井 良 一
		(四月一日)
免本職並兼職日進軍醫長心得兼分隊長心得被仰付	大湊防備隊軍醫長兼分隊長大湊要港部部員海軍軍醫大尉	伊 藤 慎 一
	海軍軍醫中尉	三 宅 正 一
勝力軍醫長心得被免第十六驅逐隊軍醫長心得被仰付		
敘勳六等授瑞寶章	正七位	丸 川 千 基
		(三月三十一日)
	正七位	矢 野 恒 太
帝國經濟會議議員被仰付		(四月二日)
臨時陸軍檢疫所所員被免臨時陸軍檢役所所員兼勤被仰付	函館重砲兵大隊附兼函館要塞司令部附陸軍一等軍醫	野 上 尙 雄
		(四月一日)
敘從四位	正五位勳三等功五級	服 部 清 一
敘從五位	正六位勳四等	菊 原 政 通
		(三月二十四日)

叙正五位	從五位勳三等	三井圭造
		(四月二日)
	海軍軍醫少將正五位勳三等功五級	服部清一
	海軍軍醫中佐正六位勳四等	菊原政通
特旨ヲ以テ位一級被進		(三月二十四日)
	海軍軍醫大佐從五位勳三等	三井圭造
特旨ヲ以テ位一級被進		(四月二日)
	岡山醫科大學助教授	中川小四郎
在外研究中年俸金八百圓ヲ支給ス		
	岡山醫科大學教授	生沼曹六
在外研究中年俸金千六百四拾圓ヲ支給ス		
	岡山醫科大學助教授	戸田茂
在外研究中年俸金六百四拾圓ヲ支給ス		(三月三十一日)
	正五位勳四等	藤田秀太郎
都市計畫岡山地方委員會委員被仰付		(四月十一日)
叙從五位	正六位勳三等功四級	上山喜明
	陸軍二等軍醫正正六位勳三等功四級	上山喜明
特旨ヲ以テ位一級被進		(三月二十五日)
叙正七位	從七位	三谷弘
	岡山醫科大學助教授兼岡山醫科大學附屬醫學專門部教授	三谷弘
陞叙高等官六等		(四月十二日)
	臺灣總督府醫院醫長	森滋太郎
南支那及英領香港へ出張ヲ命ス		(四月一日)
	陸軍三等軍醫正從六位勳四等	荻本快吉
任陸軍二等軍醫正		
	陸軍一等軍醫從六位勳五等	松原愛次郎
	陸軍一等軍醫從六位勳六等	森本末吉
	陸軍一等軍醫從六位勳五等	野田諦俊
	陸軍一等軍醫從六位勳五等	藤河喜人
	陸軍一等軍醫從六位勳五等	齋藤清
	陸軍醫一等軍從六位勳五等	南川義一

陸軍一等軍醫從六位勳五等 守 山 貞 一
陸軍一等軍醫正七位勳五等 平 野 林

任陸軍三等軍醫正

京都帝國大學總長 荒 木 寅 三 郎

文政審議會委員被仰付

(四月十五日)

-
- 横川定君 は蛔蟲の發育史に關する研究に對し社團法人船員病及熱帶病學會獎勵會より本年度の授賞者として所定の金賞牌及賞金を授與せられたり
 - 藤原政雄君 は豫て神戸市に於て開業し居られしか今般開業を中止し岡山醫科大學病理學病室に於て研究に従事せらる
 - 濱崎幸雄君 は豫て日本赤十字社山田支部病院に勤務し居られしか今般其職を辭し岡山醫科大學病理學教室に於て研究に従事せらる
 - 大林新君 は今般京都帝國大學醫學部法醫學教室及島園内科教室に入り研究に従事せらる
 - 鮫島才二君 は豫て朝鮮馬山慈惠醫院に勤務し居られしか今般其職を辭し岡山醫科大學附屬醫院第一外科に於て研究に従事せらる
 - 上山喜明君 曩日陸軍を退職せられたる同君は仙臺市東北帝國大學醫學部病理教室に於て研究に従事せらる
 - 熊谷藏之允君 は豫て高松市倉敷紡績會社高松病院に勤務し居られしか今般岡山醫科大學助手を命せられ解剖學教室に勤務せらる
 - 胡内光吉君 は本月一日一年志願兵の勤務を了へ今般大阪市西區新町緒方病院第一内科に勤務せらる
 - 大城眞郷君 は今般朝鮮馬山慈惠醫院を辭し高松市倉敷紡績會社高松病院婦人科に勤務せらる
 - 坂東行雄君 は岡山醫科大學附屬醫院第一内科教室に勤務
 - 本多 稔君 は岡山醫科大學附屬醫院第二外科教室に勤務
 - 河田榮一君 は岡山醫科大學附屬醫院耳鼻咽喉科教室に勤務
 - 高田隆次君 は岡山醫科大學附屬醫院第一内科教室に勤務
 - 辻鹿子治君 は岡山醫科大學附屬醫院第一内科教室に勤務
 - 植村吉雄君 は岡山醫科大學附屬醫院第二内科教室に勤務

- 八木 齊君 は岡山醫科大學附屬醫院産婦人科教室に勤務
- 福永正二君 は岡山醫科大學附屬醫院第一内科教室に勤務
- 粉川隆一君 は岡山醫科大學附屬醫院第一外科教室に勤務
- 赤松 圓君 は岡山醫科大學附屬醫院第二外科教室に勤務
- 荒田一郎君 は岡山醫科大學附屬醫院皮膚泌尿器科教室に勤務
- 蔡 錫 錡君 は岡山醫科大學附屬醫院第二外科教室に勤務
- 南 進君 は岡山醫科大學附屬醫院皮膚泌尿器科教室に勤務
- 三井逸平君 は岡山醫科大學附屬醫院第二外科教室に勤務
- 田中 龜君 は岡山醫科大學藥物學教室に勤務
- 中井良平君 は岡山醫科大學法醫學教室に勤務
- 豊島一男君 は鹿兒島市鹿兒島病院に勤務
- 大浦 榮君 は大阪商船株式會社船醫として勤務
- 長龜久麿君 は一年志願兵として岡山歩兵第五十四聯隊第十一中隊に入營せられたり
- 永井良政君 は東京市慶應醫科大學附屬病院皮膚科に勤務せられたり
- 平岡 寛君 は豫て岡山醫科大學附屬醫院第二内科教室に勤務し居られしか今般辭職本縣久米郡大埴和村に於て開業せられたり
- 服部清一君 は今般豫備役を仰付けられたる同君は吳市岩方通一丁目に於て開業せられたり
- 藤政清石君 は今般兵庫縣御影町東明病院を辭し歸郷せられたり
- 小堀利一郎君 は豫て本縣都窪郡倉敷町に於て開業し居られしか先般本縣苫田郡津山町に移轉依然眼科患者の診療に従事せらる

三谷弘君逝く 君は大正三年岡山醫學專門學校を卒業し爾來岡山縣病院眼科教室に勤務し大正八年同校講師となり大正十二年岡山醫科大學助教授兼岡山醫科大學附屬醫學專門部教授に任せられ今日に至りしか昨年末より病魔の襲ふ所となり靜養に力められしも其效なく本月十二日遂に永眠せられたり君前途有爲の才を抱き空しく逝く洵に痛惜に堪へざるなり

小松一樹君逝く 君は明治三十八年岡山醫學專門學校を卒業し暫く當地村田醫院に勤務し後東京府下豊多摩郡東大久保町に於て開業し居られしか本月四日逝去せられたりと洵に哀悼に堪へざるなり

◎學位授與 岡山醫科大學助教授大森大亮君は豫て岡山醫科大學に論文を提出し學位を請求し居られしか本月十一日の教授會に於て學位を授與すべきものと決定したり其主論文及參考論文は左の如し

主論文

Ueber die Entwicklung der Innervation der Genitalapparate als peripheren Aufnahmsapparat der genitalen Reflexe.

參考論文

Ueber Hyperplasie und Metaplasie des Epithels bei Entzündungen des Nebenhodens und des Vas defarens.

Histopathologische Studien an den akzessorischen Geschlechtsdrüsen (Prostata und Samenblase) unter besonderer Berücksichtigung ihrer Wechselbeziehungen.

Bedeutung der Membrana propria der Glomerulusschlingen in der Nierenpathologie.

◎日本婦人科學會總會 第二十二回日本婦人科學會總會は去月三十、三十一の兩日岡山醫科大學附屬醫院南臨牀講義室に於て開會したり全国各地より來會せるもの三百餘名にして滿場立錐の餘地なき盛況なりし其概況は左の如し

第一日 午前八時開會、會長池田陽一博士開會を報じ幹事の庶務、會計の報告ありて豫定の講演に移る講演の圖表は全部「エビヂヤスコープ」を應用して來會者の理解を深からしめたり

午後一時より同三時迄特別課題たる「婦人膀胱鏡検査法」を安藤晝一博士より報告せられ、再び豫定の講演に移り午後六時演了す

第二日 午前八時より講演を開始し豫定の「プログラム」を終へ午後五時半盛會裡に閉會したり

●岡山醫學會東京部會 斯會は四月二日午後五時より今半に於て學會を機として上京されたる多數の我が會員諸君を御迎へして開きました。此機會に於て物故されたる會員矢部辰三郎氏に哀悼の意を表す。次で開宴、談論風發、十二分の歡を盡して惜しき別れを告げました。(世話人報)

出席者芳名

菅田直樹	松井篤二	小橋新次	木畑辰夫	加藤喜雄
中村松男	戸出軍兵	荒木豊吉	西下正巳	清水勝男
井上秀夫	菅野大作	井上壽男	三野原愛四郎	山谷徳治郎
永井秀太	三藤香吉	以上十七名		